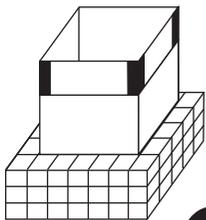
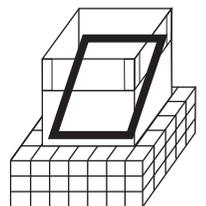


ぬか床の作り方

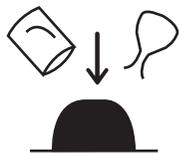
① 段ボール箱のふたを立ててテープで止める。段ボールの下はカゴなど空気がぬけるものを台にする。



② 新聞紙を箱の底に敷く。

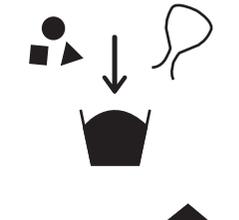


③ 腐葉土と米ぬか1kgを良くまぜ、箱に入れる。

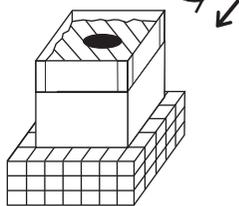


生ごみの入れ方

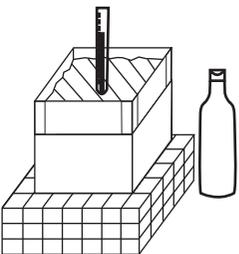
④ 水を切った生ごみ1kg以上をバケツなどの中でぬか4つかみをまぶしよく混ぜる。



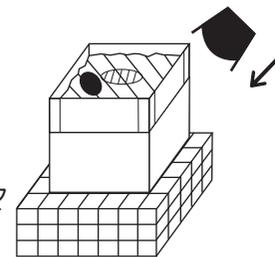
⑤ ぬか床の中央を深く掘り、生ごみを入れる。周囲の床土を少しずつかき混ぜながら生ごみと土を移植ごてでつき混ぜるようにしてなじませる。



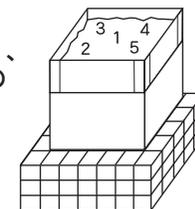
⑥ 最後に周囲の土をきれいにかぶせて発熱を待つ。(時々土をほぐす)
※1~2日後から50~60℃の熱がでる。
※寒い時期には空ビンにお湯を入れてごみと一緒に埋めてやると発熱が早い。(発熱しているところへゴミを入れるときは、湯たんぽは不要)



⑦ 最初の生ごみが50℃以上になったら、その横に穴を掘り、ぬかをまぶした生ごみ(500g以上)を埋める。ごみが少ないときはぬかをまぶして溜めておく。
※最初に埋めた生ごみの上から移植ごてを、ザクザク突き立てるようにして空気を入れる。※ごみの入っていないところも良くかき混ぜてぬか床をほぐす。



⑧ 箱の4隅を、順に廻るように埋めていくと、一周したら前に埋めた分は分解しているので、次々と毎日埋めていく。



生ごみについて…

生ごみは出来るだけ小さい方が早くきれいに分解します。キャベツの芯は薄切りがよい。初心者は、野菜くず、果物の皮だけを対象にすると失敗しない。他の生ごみは広告の紙に包んでごみ回収車に。

Q & A

「いきゴミさん」の置き場所は

- 寒い時は暖かい所が良い
- 雨がかららない工夫をして
- 箱の上下周囲を良く空ける
- 気軽に手入れが出来る良く通る所

入れないほうが良いもの

- 貝殻・鯛・鶏の骨・玉ねぎの薄皮 (形が変わらない)

ゴミが少ない

- 500gくらいになるまでぬかをまぶしておく
- 廃油少しずつ・コーヒーかすや茶ガラを使う (虫を防ぐ)

ゴミが多い

- 大きな箱にし、腐葉土も増やす
- 2箱使って交互に埋める

熱が出ない

- 腐葉土が湿っていたら広げて風を通す
- よくかき混ぜる
- 湯たんぽをする(空き瓶にお湯を入れて一緒に埋めておく)
- 生ゴミが少ないと2~3日ためてから(ぬかをまぶしておく)

どのように土を使うのか

- 下の方の土から古い土と混ぜて使う
- 塩分が心配な時は庭の隅などに土だけ移して雨に当てる
- 床土が少なくなったらまた腐葉土をたす

虫がわくのはどんなとき・その対処法

- 腐ったものが入ったり、空気が不足したとき ※虫がわいた時は坂本まで連絡下さい
 - ◆ぬかとゴミをたくさん入れて温度を上げる (温度が上がらず床土の湿度が多くなったら広げて干す)
 - ◆広げて干す
 - ◆夏の日干す (暑くて効果がある)
- ※困った時は…庭の隅に置いておく・公園の花壇に寄付

いきゴミさん

～生ごみから堆肥に～

グリーンコンシューマー交野